

## 特別の教科 道徳（道徳科）

小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編 以下『小解説』と略記する。

中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編 以下『中解説』と略記する。

### 1 道徳科の目標（小解説 P. 16，中解説 P. 13）

#### (1) 道徳科の目標

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目指す。

##### 【小学校】

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。



##### 【中学校】

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

#### (2) 道徳性を養うために行う道徳科における学習の具体的な目標

##### ① 小学校における具体的な目標

- ア 道徳的諸価値について理解する
- イ 自己を見つめる
- ウ 物事を多面的・多角的に考える
- エ 自己の生き方についての考えを深める

##### ② 中学校における具体的な目標

- ア 道徳的諸価値についての理解を基にする
- イ 自己を見つめる
- ウ 物事を広い視野から多面的・多角的に考える
- エ 人間としての生き方についての考えを深める

#### (3) 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

道徳教育は道徳性（人間としてよりよく生きようとする人格的特性）を構成する諸様相である道徳的判断力、道徳的心情、道徳の実践意欲と態度を養うことを求めている。

これらの道徳性の諸様相には、特に序列や段階があるということではない。一人一人の児童生徒が、道徳的価値を自覚し、小学校においては自己の生き方についての考えを深め、中学校においては人間としての生き方について深く考え、日常生活や今後出会うであろう様々な場面及び状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を意味している。

- ・道徳的判断力は、それぞれの場面において善悪を判断する能力である。つまり、人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力である。的確な道徳的判断力をもつことによって、それぞれの場面において機に応じた道徳的行為が可能になる。
- ・道徳的心情は、道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のことである。人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情であるとも言える。それは、道徳的行為への動機として強く作用するものである。
- ・道徳の実践意欲と態度は、道徳的判断力や道徳的心情によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性を意味する。道徳の実践意欲は、道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働きであり、道徳的態度は、それらに裏付けられ

た具体的な道徳的行為への身構えとすることができる。

## 2 指導計画作成上の配慮事項（小解説 P. 72，中解説 P. 70）

### （1）年間指導計画の意義 ※\_\_\_\_\_は、中学校のみに記載

年間指導計画は、道徳科の指導が、道徳教育の全体計画に基づき、各教科等の年間指導計画との関連をもちながら、児童生徒の発達の段階に即して計画的、発展的に行われるように組織された全学年にわたる年間の指導計画である。

#### 年間指導計画の重要な意義

- ・小学校においては6年間、中学校においては3年間を見通した計画的、発展的な指導を可能にする。
- ・個々の学級において道徳科の学習指導案を立案するよりどころとなる。
- ・学級相互、学年相互の教師間の研修などの手掛かりとなる。

### （2）年間指導計画の内容

#### ① 各学年の基本方針

#### ② 各学年の年間にわたる指導の概要

- ・指導の時期      ・主題名      ・ねらい      ・教材      ・主題構成の理由
- ・学習指導過程と指導の方法      ・他の教育活動等における道徳教育との関連      など

※校長や教頭などの参加や保護者や地域の人々の参加・協力の計画などを示すことも考えられる。

※指導の時期，主題名，ねらい及び教材を一覧にした配列表だけでは年間指導計画としては機能しにくいいため，一覧表を示す場合においても，学習指導過程等を含むものなど，各時間の指導の概要が分かるようなものを加えることが求められる。

#### ③ 年間指導計画作成上の創意工夫と留意点

- ・主題の設定と配列を工夫する
- ・計画的，発展的な指導ができるように工夫する
- ・重点的な指導ができるように工夫する
- ・各教科等，体験活動等との関連的指導を工夫する
- ・複数時間の関連を図った指導を取り入れる
- ・特に必要な場合には他学年段階の内容を加える（小学校）
- ・時期，時数の変更やねらいの変更等，計画の弾力的な取扱いについて配慮する
- ・年間指導計画の評価と改善を計画的に行うようにする

## 3 道徳科の指導（小解説 P. 78，中解説 P. 76）

### （1）指導の基本方針 ※\_\_\_\_\_は、中学校のみに記載

道徳教育においては，各教科，外国語活動（小学校），総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら，年間指導計画に基づき，児童生徒や学級の実態に即し，道徳科の特質に基づく適切な指導を展開しなければならない。そのためには，以下のような指導の基本方針を，小学校においては確認する必要がある，中学校においては明確にして指導に当たる必要がある。

#### 【小学校】

- ① 道徳科の特質を理解する
- ② 教師と児童，児童相互の信頼関係を基盤におく
- ③ 児童の自覚を促す指導方法を工夫する
- ④ 児童の発達や個に応じた指導を工夫する
- ⑤ 問題解決的な学習，体験的な活動など多様な指導方法の工夫をする
- ⑥ 道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実する

#### 【中学校】

- ① 道徳科の特質を理解する
- ② 信頼関係や温かい人間関係を基盤におく
- ③ 生徒の内面的な自覚を促す指導方法を工夫する

- ④ 生徒の発達や個に応じた指導方法を工夫する
- ⑤ 問題解決的な学習，体験的な活動など多様な指導方法の工夫をする
- ⑥ 道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実する

#### 4 指導の配慮事項 ※\_\_\_\_\_は，中学校のみに記載（小解説 P. 87，中解説 P. 86）

##### (1) 道徳教育推進教師を中心とした指導体制

道徳科は，主として児童を周到に，生徒をよく理解している学級担任が計画的に進めるものであるが，学校の道徳教育の目標の達成に向けて，学校や学年として一体的に進めるものでなくてはならない。そのために，指導に際して全教師が協力し合う指導体制を充実することが大切になる。

##### (2) 道徳科の特質を生かした計画的・発展的な指導

各教科等で行う道徳教育は，全体計画によって計画的に行うものもあれば，児童生徒の日々の教育活動の中で見られる具体的な行動の指導を通して対処的に行うものもある。道徳科の指導は，学校の道徳教育の目標に向かって，教育活動全体を通じて行う道徳教育との関連を図りながら計画的・発展的に行うものである。

##### (3) 児童が主体的に道徳性を養うため，生徒が主体的に道徳性を育むための指導

道徳教育の本来の使命に鑑みれば，特定の価値観を押し付けたり，主体性をもたず言われるままに行動するように指導したりすることは，道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない。むしろ，多様な価値観の中，時に対立がある場合を含めて，人間としてよりよく生きるために道徳的価値に向き合い，いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢こそ道徳教育が求めるものと言える。

##### (4) 多様な考え方を生かすための言語活動

学校の教育活動全体で言葉を生かした教育の充実が求められている。言語は，知的活動だけでなく，コミュニケーションや感性，情緒の基盤である。道徳科においても，その言葉を生かした教育についての充実が図られなければならない。

##### (5) 問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導

道徳科の特質を生かすことに効果があると判断した場合には，多様な方法を活用して授業を構想することが大切である。道徳科の特質を生かした授業を行う上で，各教科等と同様に問題解決的な学習や体験的な学習等を有効に活用することが重要である。その際，中学校では生徒の発達の段階や特性等を考慮した上で，人間としての生き方について多面的・多角的に考え，話し合いや討論することを通して，主体的かつ自発的な学習を展開できるように創意工夫することが求められる。

##### (6) 情報モラルと現代的な課題に関する指導

社会の情報化が進展する中，児童生徒は，学年が上がるにつれて，次第に情報機器を日常的に用いる環境の中に入っており，学校や児童生徒の実態に応じた対応が学校教育の中で求められる。これらは，学校の教育活動全体で取り組むべきものであるが，道徳科においても同様に，情報モラルに関する指導を充実する必要がある。

また，現代社会を生きる上での課題を扱う場合には問題解決的な学習を行ったり，小学校では話し合いを，中学校では討論を深めたりするなどの指導方法を工夫し，課題を自分との関係で捉え，その解決に向けて考え続けようとする意欲や態度を育てることが大切である。

##### (7) 家庭や地域社会との連携による指導

道徳科は全教育活動を通じて行う道徳教育の要であり，その授業を公開することは，学校における道徳教育への理解と協力を家庭や地域から得るためにも，極めて大切である。

また，道徳科は家庭や地域社会との連携を進める重要な機会となる。その実施や教材の開発，活用などに，保護者や地域の人々の参加や協力を得られるよう配慮していくことが考えられる。

#### 5 道徳教育・道徳科における評価の意義（小解説 P. 107，中解説 P. 109）

##### (1) 道徳教育における評価の意義

- ・他者との比較ではなく児童生徒一人一人のもつよい点や可能性などの多様な側面，進歩の様子などを把握し，年間や学期にわたって児童生徒がどれだけ成長したかという視点を大

切にすることが重要である。

- ・教師が児童生徒一人一人の人間的な成長を見守り，児童生徒自身の自己のよりよい生き方を求めていく努力を評価し，それを勇気付ける働きをもつようにすることが求められる。

(2) 道徳科における評価の意義

- ・児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し，指導に生かすよう努める必要がある。
- ・道徳科において養うべき道徳性は，児童生徒の人格全体に関わるものであり，数値などによって不用意に評価してはならない。
- ・授業における指導のねらいと関わりにおいて，児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を様々な方法で捉えて，個々の成長を促すとともに，授業者の指導を評価し，改善に努めることが大切である。

6 道徳科における児童生徒の学習状況及び成長の様子についての評価

(小解説 P.109，中解説 P.111)

(1) 評価の基本的態度

- ・道徳科で養う道徳性は，児童生徒が将来いかに人間としてよりよく生きるか，いかに諸問題に適切に対応するかといった個人の問題に関わるものである。よって小・中学校それぞれの段階でどれだけ道徳的価値を理解したかなどの基準を設定することはふさわしくない。
- ・教師と児童生徒との人格的な触れ合いによる共感的な理解を基盤として，その上で児童生徒の成長を見守り，努力を認めたり，励ましたりすることによって，児童生徒が自らの成長を実感し，更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなるような評価を目指す。
- ・道徳性は，極めて多様な児童生徒の人格全体に関わるものであることから，評価に当たっては，個人内の成長の過程を重視すべきである。

(2) 道徳科における評価

① 道徳科に関する評価の基本的な考え方

- ・道徳性の諸様相である道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度のそれぞれについて分節し，学習状況を分析的に捉える観点別評価を通じて見取ろうとすることは，道徳科の評価として妥当ではない。
- ・道徳科の目標に掲げる学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を，一定のまとまりの中で，児童生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を適切に設定しつつ，学習活動全体を通して見取ることが求められる。
  - 個々の内容項目ごとではなく，大きくくりなまとまりを踏まえた評価
  - 他の児童生徒との比較による評価ではなく，児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め，励ます個人内評価として記述式で行う。

〈重視するポイント〉

- ・学習活動において児童生徒が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ，自律的に思考する中で，一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- ・道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

② 個人内評価として見取り，記述により表現することの基本的な考え方

ここに挙げる視点はいずれについても例示であり，指導する教師一人一人が，質の高い多様な指導方法へと指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにするという道徳科の評価の趣旨を理解したうえで，学校の状況や児童生徒一人一人の状況を踏まえた評価を工夫することが求められる。

ア「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させている」ことに関する視点の例

- ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしていることに着目する。
- ・自分と違う立場や考え方，感じ方を理解しようとしていることに着目する。

- ・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を広い視野から多面的・多角的に考えようとしていることに着目する。
  - イ 「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている」 ことに関する視点の例
    - ・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしていることに着目する。
    - ・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目する。
    - ・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めていることに着目する。
    - ・道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしていることに着目する。
  - ウ 発言が多くない生徒や考えたことを文章に記述することが苦手な児童生徒が、教師や他の児童（生徒）の発言に聞き入ったり、考えを深めようとしたりしている姿に着目するなど、発言や記述ではない形で表出する生徒の姿に着目するということも重要。
  - エ 年間や学期を通じて、当初は感想文や質問紙に、感想をそのまま書いただけであった児童（生徒）が、学習を重ねていく中で、読み物教材の登場人物に共感したり、自分なりに考えを深めた内容を書くようになったりすることや、既習の内容と関連づけて考えている場面に着目するなど、一単位時間の授業だけでなく、生徒が一定の期間を経て、多面的・多角的な見方へと発展していたり、道徳的価値の理解が深まったりしていることを見取るという視点もある。
- ③ 評価のための具体的な工夫
- 児童生徒が学習活動を通じて多面的・多角的な見方へと発展させていることや、道徳的価値の理解を自分との関わりで深めていることを見取るための様々な工夫が必要である。
- ア 学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したものや道徳性を養っていく過程での児童生徒自身のエピソードを累積したものを評価に活用すること、作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程を通じて児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握することなどが考えられる。
- 評価に当たっては、記録物や実演自体など成果物そのものに優劣を付けて評価するわけではないことに注意することが必要である。
- イ 児童生徒が行う自己評価や相互評価は、それ自体が児童生徒の学習活動であり、教師が行う評価活動ではない。しかし、児童生徒自身がよい点や可能性に気付くことを通じ、主体的に学ぶ意欲を高めることなど、学習の在り方を改善していくことに役立つものとして、効果的に活用し学習活動を深めていくことは重要である。年度当初に自らの課題や目標を捉えるための学習を行ったり、年度途中や年度末に自分自身を振り返る学習を工夫したりすることも考えられる。
- ウ 年に数回、教師が交代で学年の全学級を回って授業を行うことは、教師が専門教科など、得意分野に引きつけて授業を展開できたり、何度も同じ教材で授業を行うことにより指導力の向上につながったりするなど指導面の利点がある。また、学級担任が自分のクラスの授業を参観することが可能となり、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子をより多面的・多角的に把握することができるといった評価の改善の観点からも有効である。
- ④ 児童生徒の状況に応じた指導と評価
- 発達障害等のある児童生徒や海外から帰国した児童生徒、外国人の児童生徒など、いわゆる外国につながる児童生徒に対する指導や評価を行う上では、学習の過程で考えられる「困難さの状態」を把握した上で必要な配慮が求められる。評価に当たっては、配慮を伴った指導を行った結果として、多面的・多角的な見方へ発展させていたり道徳的価値を自分のこととして捉えていたりしているか見取る必要がある。

7 道徳科の授業に対する評価 ※\_\_\_\_\_は、中学校に記載（小解説 P.115，中解説 P.117）

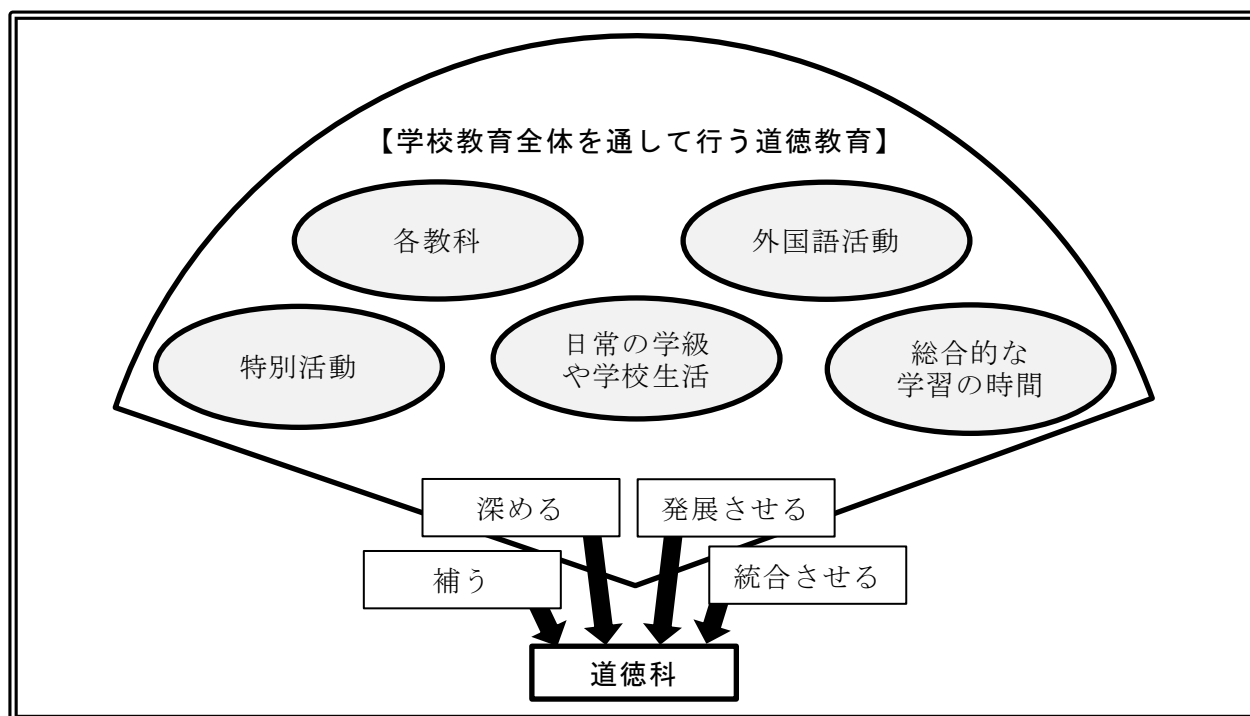
- ・学習指導過程は、道徳科の特質を生かし、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己の生き方について（中：人間としての生き方について）考えを深められるよう適切に構成されていたか。また、指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか。
- ・発問は、児童生徒が広い視野から多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確になされていたか。
- ・児童生徒の発言を傾聴して受け止め、発問に対する児童生徒の発言などの反応を、適切に指導に生かしていたか。
- ・自分自身との関わりで、物事を広い視野から多面的・多角的に考えさせるための、教材や教具の活用は適切であったか。
- ・ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるための指導方法は、児童生徒の実態や発達の段階にふさわしいものであったか。
- ・特に配慮を要する児童生徒に適切に対応していたか。

# 道徳科の授業を構成する手立て

## 1 教育課程編成の一般方針

道徳教育は、学校や児童生徒の実態などを踏まえ設定した目標を達成するために、あらゆる教育活動を通じて、適切に行われなくてはならない。

道徳科は、各活動における道徳教育の要として、それらを補ったり、深めたり、相互の関連を考えて発展させたり統合させたりする役割を果たす。



### 【小学校の時期】

6年間の発達の段階を考慮するとともに、幼児期の発達の段階を踏まえ、中学校の発達の段階への成長の見通しをもつ



### 【中学校の時期】

3年間の発達の段階を考慮するとともに、特に中学校に入学して間もない時期には小学校高学年段階における指導との接続を意識しつつ、また学年が上がるにつれて高等学校等における人間としての在り方・生き方に関する教育への見通しをもつ

道徳科においては、発達の段階を前提としつつも、指導内容や指導方法を考える上では、個々人としての特性等から捉えられる個人差に配慮することも重要となる。児童生徒の実態を把握し、指導内容、指導方法を決定してこそ、適切に指導を行うことが可能となる。

## 2 道徳科の授業に取り組む基本的な構え

道徳科の指導は、学校の道徳教育の目標を達成するために行うものであることから、道徳教育推進教師を中心として、道徳教育の全体計画や道徳科の年間指導計画に基づく道徳科の指導を行う必要がある。言うなれば、年間指導計画に基づいて様々な内容項目を取り扱うことで、計画的に児童生徒の心を育てていくことが道徳科の役割である。

また、道徳科の目標を達成するためには、児童生徒がすでに分かっていることを再確認するのではなく、授業で取り扱う内容項目について「なぜそのことが大切なのか」「分かっているのになぜ行おうことができないのか」といったことについて考えたり議論したりすることが重要となる。

### 3 授業構想・指導案作成の流れ（例）

#### (1) 主題名＝1時間の授業が概観できるような言葉で表される

道徳科の主題は、指導を行うに当たって、何をねらいとし、どのように教材を活用するかを構想する指導のまとまりを示すものである。原則として年間指導計画における主題名を記述し、指導する視点を表すアルファベットと内容項目を主題名の後に明記する。

#### (2) 主題設定の理由（略案等では省くことが多い）

児童生徒の肯定的な面やそれを更に伸ばしていこうとする観点からの積極的な捉え方を心掛けるようにする。

抽象的な捉え方をするのではなく、児童生徒の学習場面を予想したり、発達の段階や指導の流れを踏まえたりしながら、より具体的で積極的な教材の生かし方を記述する。

#### ① 価値観＝ねらいや指導内容についての教師の捉え方

学年段階ごとに示されている内容項目は、その全てが道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育における学習の基本となるものである。それぞれの内容項目の発展性や特質及び児童生徒の発達の段階などを全体にわたって理解し、児童生徒が主体的に道徳性を養うことができるようにしていく必要がある。

#### ② 児童観・生徒観＝価値観に関連する児童生徒の学習状況や実態と教師の児童生徒観

道徳科の授業を行う際に、学級担任として児童生徒一人一人のよさを発見し、その道徳性の発達段階について正確に把握しておくことが肝要である。実態を把握する方法としては、生活場面での観察、道徳授業での観察、日記や作文等の生活記録の読み取り、調査、カウンセリング、検査などが考えられる。

#### ③ 教材観＝使用する教材の特質や取り上げた意図及び教材を生かす具体的な活用方法

教科用図書や副読本等の教材について、授業者が児童生徒に考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを検討する。道徳科においても、主たる教材として教科用図書を使用しなければならないことは言うまでもないが、道徳教育の特性を鑑みれば、多様な教材を併せて活用することが重要となる。

教材について、ねらいとの関わりで道徳的価値がどのように含まれているかについて検討する際には、指導者自身が、教材の構造や表現の意図、そこに含まれる道徳的価値や人間性を深く理解することが大切である。

#### (3) 本時のねらい

年間指導計画を踏まえてねらいを記述する。本時の授業でねらいとする道徳的価値について明記し、複数の道徳的価値をねらいとして構成しないように留意する。

#### (4) 関連

年間指導計画を基に、同一学年で複数時間行う内容項目について、その教材名と主題名を確認する。複数時間行わない内容項目については、学習指導案作成上での記述は省略する。

#### (5) 学習指導過程

**道徳科の授業＝道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を育てる＝道徳性を養う時間**

(小) ねらいに含まれる道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習指導過程となるようにする。

(中) ねらいに含まれる道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習指導過程となるようにする。

#### ① 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

〈ねらい〉

教材の登場人物の心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深める。



### 〈指導方法の効果〉

教材の登場人物の心情と自分との関わりについて、多面的・多角的に考えることを通し、道徳的諸価値の理解を深めることについて効果的な指導方法である。登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えることにより、道徳的価値の理解を深めることができる。

### 〈留意事項〉

教師に明確な主題設定がなく、指導観に基づく発問でなければ、登場人物の心情理解のみの指導になりかねない。

導入	<b>道徳的価値に関する内容の提示</b> 教師の話や発問を通して、本時で扱う道徳的価値へ方向付ける。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・価値への方向付け</li> <li>・教材への方向付け</li> </ul>
展開	<b>登場人物への自我関与</b> 教材を読んで、登場人物の判断や心情を類推することを通して、自分との関わりで考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡潔に「あらすじ」を確認する。</li> <li>・教材を基に、主人公等の思いや考え方に共感させる。</li> <li>・級友の価値観と照らし合わせることで、自分の感じ方や考え方の位置を知らせ、自分の価値観を深化させる。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <b>教師の主な発問（例）</b>  <b>〔共感的活用〕</b>          主人公等の考え方、感じ方に共感させることによって、自分の現在の価値観に気付かせ自覚を促す方法。         <ul style="list-style-type: none"> <li>・そのとき主人公はどのような気持ちだっただろう。</li> <li>・そのとき主人公は何を考えていただろう。</li> <li>・そのとき主人公は何を悩んでいただろう。</li> </ul> <b>〔感動的活用〕</b>          教材が深い感銘を与える場合、生徒の感動を特に重視しながら、ねらいとする価値把握を図る方法。         <ul style="list-style-type: none"> <li>・心に残ったところはどこだろう。</li> <li>・なぜそこが心に残ったのだろう。</li> <li>・なぜ皆を感動させるのだろう。</li> </ul> <b>〔範例的活用〕</b>          主人公等の行った道徳的行為を、児童生徒に一つの手本や範例として受け取らせる方法。         <ul style="list-style-type: none"> <li>・手本にしたいところはどのようなところか。</li> <li>・見習いたいところはどのようなところか。</li> <li>・どうしてこんな立派な行為ができたのだろう。</li> </ul> <b>〔批判的活用〕</b>          主人公等の行為や考え方を児童生徒に批判させ、互いの意見を交わすことにより道徳的な考え方、感じ方を深めさせる方法。         <ul style="list-style-type: none"> <li>・このときの主人公の考えをどう思うか。</li> <li>・この主人公の行為をどう思うか。</li> <li>・この行為をした主人公をどう思うか。</li> </ul> </div> <b>価値の内面的自覚を図る</b> 本時の授業を踏まえ、各自で道徳的価値に関わる自分の在り方や生き方を振り返り、交流する。
終末	<b>まとめ</b> 教師による説話や、個人内評価などでまとめる。

## ② 問題解決的な学習

### 〈ねらい〉

問題解決的な学習を通して、児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。

### 〈指導方法の効果〉

児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な道徳的価値に関わる問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。問題場面について児童生徒自身の考えの根拠を問う発問や、問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促す発問、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる発問によって、価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

- ・出会った道徳的な問題に対処しようとする資質・能力を養う指導方法として有効
- ・他者と対話や協同しつつ問題解決する中で、新たな価値や考えを発見・創造する可能性
- ・問題解決の先に新たな「問い」が生まれるという問題解決プロセスに価値がある
- ・考え、議論する中で図られるコミュニケーション自体に道徳的価値がある

### 〈留意事項〉

明確なテーマ設定の下で、

- ・多面的・多角的な思考を促す「問い」が設定されているか。
- ・「問い」の設定を可能とする教材が選択されているか。
- ・議論し、探求するプロセスが重視されているか。

といった検討や準備がなければ、単なる「話し合い」の時間になりかねない。

### 【パターン１】

導入	<b>問題の発見</b> 教材や日常生活から道徳的な問題を見つける。
展開	<b>問題の探求</b> 発見した問題について、グループなどで「なぜ問題となっているのか」「問題をよりよく解決するためにはどのような行動をとればよいのか」などについて、多面的・多角的に考え、議論を深める。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <b>教師の主な発問（例）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ思いやりは大切なのだろうか。</li> <li>・どうすれば思いやりを表現できるだろうか。</li> <li>・同じ場面に出会ったら、自分ならどのように行動するか。</li> <li>・なぜそのように行動するのか。</li> <li>・よりよい解決方法はないだろうか。</li> </ul> </div> <b>問題の解決</b> 問題の探求を踏まえ、問題に対する自分なりの考えや解決方法を導き出す。
終末	<b>まとめ</b> 本時を振り返り、学習したことを今後どのように生かすことができるかを考える。

### 【パターン２】

導入	<b>道徳的価値の想起</b> 個人的な経験や具体的な事例から道徳的価値を考える。
展開	<b>道徳的な問題の状況の分析</b> 教材を読んで、道徳的問題の状況を分析する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <b>教師の主な発問（例）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここでは何が問題になっていますか。</li> <li>・何と何で迷っていますか。</li> </ul> </div> <b>複数の解決策の構想</b> 問題場面对し、様々な解決策を構想する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <b>教師の主な発問（例）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公はどうしたらよいのだろう。</li> <li>・自分ならどうしただろう。</li> </ul> </div> <b>シミュレーション</b> 考えた解決策を身近な問題に適用し、自分の考えを再考する。

終末	<b>まとめ</b> 今後の生活でどのように生かせるかを問い、価値の内面化から道徳的实践へと促す。
----	--

### ③ 体験的な活動

#### 〈ねらい〉

役割演技などの体験的な活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。

#### 〈指導方法の効果〉

役割演技などの体験的な活動を通して、実際の問題場面を実感を伴って理解し、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。問題場面を実際に体験してみること、また、それに対して自分ならどういう行動をとるかという問題解決のための役割演技を通して、道徳的価値を実現するための実践的な資質・能力を養うことができる。

- ・心情と行為をすり合わせることで、無意識の行為を意識化することができ、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことに有効である。
- ・体験的な活動を通して、取り得る行為を考えたり、選択させたりすることで、内面も強化していくことが可能である。
- ・実際の行為の難しさやその対処法を考え、議論する中で図られるコミュニケーション自体に道徳的価値がある。

#### 〈留意事項〉

明確なテーマの下での検討や準備がなければ、主題設定の不十分な生徒指導・生活指導になりかねない。

- ・心情と行為との葛藤を意識化させ、多面的・多角的な思考を促す問題場面が設定されているか。
- ・問題場面の設定を可能とする教材が選択されているか。

#### 【パターン１（役割演技）】

導入	<b>教材の提示</b> 教材の概要の説明や登場人物の確認などを行う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>提示の例</b>            ・電車の中で席を譲るか譲らないかという葛藤場面         </div>
展開	<b>道徳的な問題場面の提示</b> ペア・インタビューなどを通して、登場人物の心情を理解し、何が問題になっているのか、状況を把握する。  <b>再現の役割演技</b> グループをつくり、実際の問題場面を役割演技で再現し、登場人物の葛藤を理解するとともに、取り得る行動を多面的・多角的に考える。  <b>新たな場面の提示</b> 同様の新たな問題場面を提示し、グループで何が問題になっているかを考え、取り得る行動を多面的・多角的に考える。  <b>解決の役割演技</b> 新たに提示された場面について考えた取り得る行動を、役割演技を通して再現し、解決を図る。
終末	<b>まとめ</b> 感想を聞き合ったり、ワークシートへ記入したりして、自分の取り得る行動について振り返る。

### 【パターン2（道徳的行為）】

導入	<b>道徳的価値に関する内容の提示</b> 分かっているにもかかわらず実践できない道徳的行為を想起し、理由を考える。
展開	<b>教材の提示</b> 道徳的価値の含まれた映像教材を視聴し、登場人物の行動に想いを巡らせ、行動の意味やその際の心情を考える。  <b>自分の行動を振り返る</b> 教材を踏まえ、なかなか実践できない道徳的行為について、実践するには勇気がいることなど、気持ちと行動をつなげることの難しさや大切さを考える。  <b>体験的な活動</b> これまでの授業を踏まえ、実際に問題場面を設定し、道徳的な行為を体験する。体験を通して実生活における道徳的な問題の解決に見通しをもつ。
終末	<b>まとめ</b> 体験をした感想を交流したり、今後の生活にどのようにつなげていくかを考えたりする。

### 【パターン3（問題解決的な学習＋体験的な活動）】

導入	<b>道徳的価値の考察</b> 道徳的価値の本当の意味や意義を考える。
展開	<b>道徳的な問題の状況の分析</b> 教材を読んで、道徳的問題の状況を分析する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <b>教師の主な発問（例）</b>          ・ここでは何が問題になっていますか。          ・何と何で迷っていますか。       </div> <b>複数の解決策の構想</b> 問題場面对し、様々な解決策を構想する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <b>問題解決への示唆（例）</b>          ・自分が同じようにされてもよいか。          ・いつ、どこで、誰にでも同じようにするのか。          ・それで皆が幸せになれるか。       </div> <b>体験的な活動</b> 自分ならどのように行動するかということを、役割演技などを通して実際に経験する。
終末	<b>まとめ</b> 導入における根本的な問いに対し、自分なりの結論を出す。

## ④ その他、道徳科に生かす指導方法の工夫

### ア 話し合いの工夫

- ・児童生徒相互の考えを深める中心的な学習活動であり、道徳科においても重要な役割を果たす。考えを出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じて効果的に話し合いが行われるよう工夫する。
- ・話すことと聞くことが並行して行われ、友達の考え方についての理解を深めたり自分の考えを明確にしたりすることができる。

### イ 書く活動の工夫

- ・児童生徒が自ら考えを深めたり、整理したりする機会として、重要な役割をもつ。
- ・自分自身とじっくりと向き合ったり自分なりにじっくりと考えたりすることができる。
- ・1冊のノートなどを活用することによって、学習を継続的に深めていくことができ、

児童生徒の成長の記録として活用したり，評価に生かしたりすることもできる。

ウ 動作化，役割演技等の表現活動の工夫

- ・児童生徒に特定の役割を与えて即興的に演技する役割演技の工夫
- ・動きやせりふ，言葉を模倣して理解を深める動作化の工夫
- ・音楽，所作，その場に応じた身のこなし，表情などで自分の考えを表現する工夫

エ 板書を生かす工夫

- ・教師の伝えたい内容を示したり，その順序や構造を示したり，内容の補足や補強をしたりするなど，板書は多様な機能をもっている。
- ・思考の流れや順序を示すような順接的な板書，違いや多様さを対比的，構造的に示す板書，中心部分を浮き立たせる板書などの工夫が大切である。

オ 説話の工夫

- ・説話とは，児童生徒がねらいの根底にある道徳的価値を一層主体的に考えられるようにするものである。
- ・教師の体験談や願い，様々な事象についての所感，日常生活における問題や身近な話題，関心や視野を広げる時事問題，ことわざや格言，心に残る標語，地域の自然や伝統文化に関することなどが考えられる。

指導案について

主題名は、原則として年間指導計画に記載されているものを記述する。

算用数字は、1桁の場合は全角、2桁以上の場合は半角で表記する。

四つの視点を表すアルファベットと内容項目を記述する。  
※番号は記述しなくてもよい。

第5学年○組  
令和○年○月○日  
○曜日  
第○時  
指導者 ○ ○ ○ ○

1 主題名 人のために役立つ C 勤労、公共の精神

2 主題設定の理由

(1) 価値観  
勤労は、日々の糧を自ら得て自立することを目的とする。単に自分の生活の維持向上を目的とするだけではなく、働くことで得られる達成感や満足感、人の役に立つうれしさややりがいをもたらす。同時に社会への奉仕活動など公共のために役立つ活動を積み重ねることで、今日の地域社会や国家がつけられている。そこで、働くことの意義を理解し、自分の充実感を得るためだけでなく、よりよい社会をつくるために社会に奉仕しようとする意欲や態度を養いたい。

(2) 児童観  
本学級の児童は、校外学習やメディアを通して様々な仕事があることを知っている。また、勤労は、自分や家族の生活を支えていることや人の役に立つことにも気が付いている。学校生活の中では、仲間と協力して学ぶことの楽しさを通して仕事を成し遂げた際の喜びや手応えを感じ始めている。働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうことで、勤労は、公共のために役立つことであることを捉えさせたい。同時に、皆のために働こうとする意欲をもたせ、進んで公共のために役立とうとする態度を培うことができるようにしたい。

(3) 教材観  
本教材は、常滑の陶業のために尽力した伊奈長太郎の話である。長太郎は茶器を焼く家に生まれた。長太郎は土管やタイルを焼く事業を広めようと考え、アメリカへ渡り、陶業界を視察した。帰国後、長太郎はアメリカで学んだことを惜しみなく工場の参観者に見せた。5年がかりで生み出した陶土を掘るときにのくずの利用方法も躊躇なく公表した。学びや研究の成果を常滑の人や国のために還元する長太郎がいたからこそ、今のわたしたちの便利な生活がある。地域に実在した人物の話なので、児童は関心をもちやすいであろう。長太郎を児童とかけ離れた偉人として扱うのではなく、長太郎の生き方と児童の生き方をつなげて考えさせたい。

3 本時のねらい

○働くことや社会に奉仕することの意義を理解し、公共のために役立とうとする気持ちを高める。

4 準備・教材

○教材名「それでええじゃないか」 出典「明るい心」

○教師・・・ワークシート

5 関連

道徳「お父さんは救急救命士」（働くことの意義）

6 学習指導過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
導 入	1 写真を見て、登場人物について知る。 ○この写真は、何の写真でしょう。 ・製品 ・工場や働く人 ・常滑工場の地図	4	○伊奈長太郎の会社に関わりのある写真を掲示する。 ○写真を掲示することで、教材への興味付けをする。
展 開	2 教材を読み、話し合う。 <div>長太郎は、どんな気持ちで工場を丁寧に説明したのでしょうか。</div> <div>・アメリカで知った工場のすばらしさを多くの人に知ってほしい。 ・全国から来た参加者の期待に応えたい。 ・自分の技術を受け継ぐ人を育てたい。 ・この技術が皆のためになってほしい。</div>	15	○かつての日本の工場と、アメリカの最先端の工場との違いを押さえる。 ○最先端の技術を参観者に伝えたいという長太郎の気持ちについて考えさせる。
開 閉	<div>長太郎は、どんな思いで「それでええじゃないか」と言ってきたのだろう。</div> <div>・もうけることより、人のためになる方がよい。 ・常滑の人たちが喜んでくれたらうれしい。 ・常滑が発展し、人々の暮らしがよくなればよい。 ・この技術が人々のためになってほしい。 ・この技術が知れ渡り、国が豊かになってほしい。</div>		○公共のために役立てたいという長太郎の気持ちを感じ取らせる。 ○学級全体で話し合わせる。 <div>補長太郎はアメリカの工場で何を学んで来たのだろう。</div> <div>補長太郎は、どんな気持ちで陶土に変える技術を雑誌に発表したのだろう。</div>

指導する内容項目を端的に表す言葉は、すべて記述する。

(1) 価値観  
(2) 児童観（生徒観）  
(3) 教材観  
と明記する。

(1) 学習指導要領の内容や解説の内容項目についての記述を十分に踏まえること。  
(2) この時期にこのねらいを取り上げる理由を児童生徒の具体的な実態を踏まえて述べる。  
(3) 教材の取り扱い方や効果的な活用について明記する。

(1) 年間指導計画を踏まえてねらいを記述する。  
(2) 本時の授業でねらいとする道徳的価値について明記する。  
(3) 複数の道徳的価値をねらいとして構成しないように留意する。

教科書以外の資料を用いるときは、出典を書く。

複数時間行う内容項目についての同学年の道徳の関連を示す。  
「教材名」（主題名）  
複数時間行わないときは省略し、「5 学習指導過程」とする。

児童生徒の活動に対応した指導上の留意事項を書き、「○」で書き始める。  
・指導の要点や方法  
・発問の意図  
・視聴覚機器の使用  
・教材を示すときの注意事項  
・その他留意しておきたいこと

基本発問は、四角囲みをする。

中心発問は、二重線で囲む。

補助発問は、点線の野線で囲み 補 で書き始める。

道徳－31

展  開		32	評長太郎の考えから、人の役に立つことのすばらしさに気付いている。 (話し合い)		
	人の役に立つということは、どんなことだろう。			価値の把握の発問は、四角囲みをする。	
終  末	3	気付いたことを基に、自己を見つめる。	40	○中心発問から出た、人の役に立つという視点から、公共の精神についての考えを深める。 ○長太郎が惜しむことなく技術を公開したことを押さえる。	経過予定時間を学習の区切りごとに示す。また、罫線で区切る。
	今日の授業でどんなことを学びましたか。			価値の自覚の発問は、四角囲みをする。	
		働くことは、お金をもうけるだけでなく、人のためになる。 生活の中で、人のためになることをしてみたい。 困っている人がいたら、助けてあげたい。	45	○授業で感じたことや考えたことを、ワークシートに自分の言葉でまとめさせる。 ○ワークシートに記入している内容を机間指導で把握する。 評働くことの意義や公共の役に立つことについて考えている。 (ワークシート)	「評」には、学習活動の流れの中での評価の観点を記述する。評価方法については( )内に略記する。
7 本時の評価 ○働くことは、単にお金儲けをするだけでなく、公共のために役に立つ側面があるということについて考えている。 (話し合い、ワークシート)					本時の学習を通して目標がどの程度達成できたかを確かめる観点を示す。 評価方法については、右詰で( )内に略記する。
8 備考 ○知多半島出身の著名な人物に着目し、自分たちの住む地域に近いところで大きな社会貢献をした人物を取り上げることで、親しみを感じながら学習できるようにする。 ○補助発問を用意し、長太郎の気持ちに深く迫ることで、社会に奉仕することの意義について、より一層考えられるようにする。					
9 指導と評価					

指導後の反省を記入して保存しておきたい。

- ・主題を取り上げる時期はよかったか。
- ・教材は適切であったか。
- ・ねらい、内容、時間に問題はなかったか。

1～7に書かなかったことで、本時の指導上必要なことがらを示す。

- ・教科用図書を使用せず、副読本等を使用した意図
- ・特殊な指導形態をとった場合の根拠
- ・他領域、教科との関わり
- ・学校の現職教育の主題を踏まえた授業構成や手だて
- ・事前や事後の指導の工夫
- ・その他、板書計画や座席表等

道徳科の学習指導過程には特に決められた形式はない。

一般的には「導入→展開→終末」と各段階を設定する方法が広く行われている。「導入→展開（前段）→展開（後段）→終末」や「方向付け→価値の追求・把握→価値の自覚→まとめ」といった設定をすることもある。

学習指導案には、児童生徒がねらいとする道徳的価値の自覚を深めるために、教材を活用して、どのような手順で指導をすすめるのかを示す。

1 ----- 児童生徒の認識過程をふまえた各段階における児童生徒の活動

- ----- 具体的な学習活動
- ・ ----- 予想される児童生徒の反応（具体的な学習活動を明記する必要があるときは○の位置から書き始める）

**基本発問**  
人間関係を把握したり、状況をつかんだりするための補助的な発問。  
教材により省略することもある。

**中心発問**  
本時のねらいとする価値に迫るための多様な価値観を引き出す発問。  
読み物教材中の主人公等が「ねらい」とする価値を十分把握できず、悩んだり苦しんだりする場面で設定されることが多い。

**価値の把握の発問**  
本時のねらいを把握することができる、主人公の気持ちを問う発問。  
主人公が本時のねらいとする価値に気がつき、よりよく生きていこうとする場面で設定されることが多い。

**価値の自覚の発問**  
本時に学んだことを通し、今までの自分自身を振り返る発問。  
基本的には、主人公と同じような経験を問い、今までの生活を振り返らせることになるが、対話や小集団による話し合い、主人公へ手紙を書かせるなどの工夫をすることで指導効果を高めることができる。

**補助発問**  
本時のねらいにせまるために、本音を引き出し、考え方を深めるため、掘り起こしや切り返しの追発問で、中心発問に対して設定する。

◆ 発問に対して児童生徒の予想される発言は……

- ・ 共感や批判で分類したり、価値観により類型化したりするなど工夫して記す。
- ・ 価値の低いものから順に記す。
- ・ 体言止めの文末には句点を付けない。